

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-113141

(43)Date of publication of application : 24.04.2001

---

(51)Int.Cl.

B01D 69/10  
B32B 5/18  
C08J 7/04  
// C08J 5/04  
H01M 8/02  
H01M 8/10

---

(21)Application number : 11-294919

(71)Applicant : TEIJIN LTD

(22)Date of filing : 18.10.1999

(72)Inventor : NISHIKAWA SATOSHI  
OMICHI TAKAHIRO

---

**(54) HIGH POLYMER ELECTROLYTE MEMBRANE REINFORCED SUBSTRATE AND HIGH POLYMER ELECTROLYTE MEMBRANE**

**(57)Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a high polymer electrolyte membrane reinforced substrate for solid high polymer type fuel cell improved oxidation resistance, acid resistance, and hydrolysis resistance, and to provide a high polymer electrolyte membrane, provided with proton conductivity, strength and heat resistance, using the base material.

**SOLUTION:** This high polymer electrolyte membrane reinforced substrate consists of a porous sheet made of aramid resin, and the porous sheet is coated with fluororesin. As the porous sheet, nonwoven fabric of aramid resin is highly suited to use for this purpose.

---

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2001-113141  
(P2001-113141A)

(43) 公開日 平成13年4月24日 (2001.4.24)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
B 0 1 D 69/10		B 0 1 D 69/10	4 D 0 0 6
B 3 2 B 5/18		B 3 2 B 5/18	4 F 0 0 6
C 0 8 J 7/04	CFG	C 0 8 J 7/04	CFGB 4 F 0 7 2
// C 0 8 J 5/04		5/04	4 F 1 0 0
H 0 1 M 8/02		H 0 1 M 8/02	P 5 H 0 2 6
審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 6 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平11-294919

(22) 出願日 平成11年10月18日 (1999.10.18)

(71) 出願人 000003001

帝人株式会社

大阪府大阪市中央区南本町1丁目6番7号

(72) 発明者 西川 聡

山口県岩国市日の出町2番1号 帝人株式会社岩国研究センター内

(72) 発明者 大道 高弘

山口県岩国市日の出町2番1号 帝人株式会社岩国研究センター内

(74) 代理人 100077263

弁理士 前田 純博

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 高分子電解質膜補強基材及び高分子電解質膜

(57) 【要約】

【課題】 耐酸化性、耐酸性、耐加水分解性の改善された固体高分子型燃料電池用の高分子電解質膜補強基材、及びこれを用いたプロトン伝導性、強度、耐熱性を兼ね備えた高分子電解質膜を提供することにある。

【解決手段】 アラミド樹脂からなる多孔性シートからなり、該多孔性シートはフッ素樹脂でコーティングされていることを特徴とする高分子電解質膜補強基材であり、多孔性シートとしてアラミド樹脂の不織布を用いることが好適である。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 アラミド樹脂からなる多孔性シートからなり、該多孔性シートはフッ素樹脂でコーティングされていることを特徴とする高分子電解質膜補強基材。

【請求項2】 多孔性シートが不織布であることを特徴とする請求項1記載の高分子電解質膜補強基材。

【請求項3】 フッ素樹脂の主成分がポリテトラフルオロエチレン（PTFE）がであることを特徴とする請求項1または2記載の高分子電解質膜補強基材。

【請求項4】 不織布を構成する繊維の表面がフッ素樹脂でコーティングされている請求項2または3記載の高分子電解質膜補強基材。

【請求項5】 アラミド樹脂からなる多孔性シートにフッ素樹脂の水分散液を含浸させ、ついで熱処理することを特徴とする高分子電解質膜補強材の製造法。

【請求項6】 熱処理温度が該フッ素樹脂の融点以上380℃以下であることを特徴とする請求項5記載の高分子電解質膜補強基材の製造法。

【請求項7】 該フッ素樹脂の水分散液のフッ素樹脂固形分濃度が10～50重量%であることを特徴とする請求項6記載の高分子電解質膜補強基材の製造法。

【請求項8】 アラミド樹脂からなる多孔性シートからなり、該多孔性シートはフッ素樹脂でコーティングされていることを特徴とする高分子電解質膜補強基材で補強されたプロトン伝導性高分子電解質膜。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は機械強度と耐熱性に優れた高分子電解質膜補強基材及びそれにより補強されたプロトン伝導性高分子電解質膜に関するもので、さらに詳しくは、アラミド樹脂の多孔性シートからなり、耐酸化性、耐酸性、耐加水分解性を向上させた高分子電解質膜補強基材、その製造法及び該補強基材で補強されたプロトン伝導性高分子電解質膜に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】アラミド繊維は耐熱性や強度に優れ、それらの性質が必要とされる用途に用いられる。しかし耐酸化性、耐酸性及び耐加水分解性といった耐薬品性に劣ることから用途が限定され、耐熱性や強度といったアラミド繊維のもつ特徴と十分に活かされていないのが現状である。

【0003】近年、環境問題からクリーンで高効率な電源として燃料電池が注目され、低温作動や小型化の観点から固体高分子型燃料電池（PEFC）の開発が活発におこなわれている。PEFCの用いる高分子電解質膜は「ナフィオン」（Nafion、デュボン社の登録商標。以下同様。）に代表されるパーフルオロスルホン酸膜が用いられているが、膜抵抗の低減、膜水分保持管理性、低コスト化等の観点から薄膜化が要求されている。パーフルオロスルホン酸膜の機械強度的な問題であり、

薄膜化のためには膜補強技術が重要となってくる。特開平8-162132号公報には、膜補強技術としてテトラフルオロエチレン延伸多孔膜と複合化させるという技術が記載されている。しかし、テトラフルオロエチレン延伸多孔膜は支持体として高価だけでなく、その表面張力が小さいために、電解質ドープ含浸のときドープの濡れ性の問題からドープの含浸が難しいという問題を有していた。

【0004】PEFC用高分子電解質膜補強基材には耐久性といった観点から耐酸化性に対する要求は強く、テトラフルオロエチレンに代表されるフッ素系樹脂しか用いられていないのが現状である。

【0005】他方、アラミド繊維の耐薬品性を向上させる技術としてフッ素樹脂でコーティングする技術がある。例えば、無機微粒子を付着させ、熱処理後、ポリテトラフルオロエチレン微粒子の水分散液とフッ素化ウレタンとの混合物を付着させ、熱処理する方法（特開平8-299719号公報）、フッ素樹脂の融点±60℃で熱処理したロープ状物質（特開平3-249276号公報）がある。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は耐酸化性、耐酸性、耐加水分解性の改善されたアラミド多孔性シートを提供し、これをPEFC用高分子電解質膜補強基材として用いることでプロトン伝導性、強度、耐熱性を兼ね備えたPEFC用高分子電解質膜を提供することにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】PEFC用高分子電解質膜の薄膜化の観点から、アラミド繊維からなる不織布は強度的にフッ素系樹脂系より優れていることは補強基材として有利である。また、コスト的にも有利である。しかし、耐酸化性、耐酸性、耐加水分解性が問題となる。

【0008】このような現状を鑑み鋭意検討した結果、耐酸化性、耐酸性、耐加水分解性に優れたアラミド樹脂からなる多孔性シートを開発し、これをPEFC用高分子電解質膜補強基材として利用することで、本発明を完成するに至った。

【0009】すなわち本発明は、アラミド樹脂からなる多孔性シートからなり、該多孔性シートはフッ素樹脂でコーティングされていることを特徴とする高分子電解質膜補強基材である。

【0010】本発明は、上記の課題を解決するためアラミド樹脂からなる多孔性シートにフッ素樹脂コーティングを施すことで耐酸化性、耐酸性、耐加水分解性の改善し、これを高分子電解質膜補強基材として用いる。

## 【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の高分子電解質膜補強基材及び高分子電解質膜について詳細に説明する。本発明の高分子電解質膜補強基材はフッ素樹脂でコーティ

ングされたアラミド樹脂からなる多孔性シートであることを特徴とする。

【0012】本発明の高分子電解質膜補強基材に用いる多孔性シートを形成するアラミド樹脂にはメタ型アラミド樹脂及びパラ型アラミド樹脂からなるものがあるが、本発明には両者とも用いることができる。また、主成分がアラミド樹脂からなる共重合体でもブレンド体であっても構わない。

【0013】本発明において、アラミド樹脂からなる多孔性シートの形状は、アラミド繊維よりなる不織布、織物などの三次元網目状を有するもの、アラミド重合体である合成バルブが分散する構造の通気性のある紙様のシート、あるいはアラミド樹脂からなる細孔が多数開いたフィルムといった形状が好ましい。特にコーティングのし易さや高分子電解質ドープの含浸性、含浸量といった該補強基材により補強された電解質膜作製のし易さ及び該補強基材により補強された電解質膜のプロトン伝導性といった観点から、目付けが $5 \sim 40 \text{ g/m}^2$ の不織布が好適に用いられる。目付けが $5 \text{ g/m}^2$ 未満であると補強基材としての強度を十分に保つことができない。また、目付けが $40 \text{ g/m}^2$ より大きいと膜厚が厚くなり、不織布の空隙率も低下する。このため膜抵抗が大きくなり高分子電解質膜の伝導度の低下を招く。

【0014】アラミド樹脂からなる多孔性シートをコーティングするフッ素樹脂としてポリテトラフルオロエチレン（PTFE）及びこれを主成分にするフッ素樹脂が好適に用いられる。PTFEを主成分（全体の50重量%以上、好ましくは80重量%以上）とするフッ素樹脂としては、例えばテトラフルオロエチレンーパーフルオロアルキルビニルエーテル共重合体（PFA）、テトラフルオロエチレンーヘキサフルオロプロピレン共重合体（FEP）、が好適に用いられるが、これに限定されるものではない。

【0015】アラミド樹脂からなる多孔性シートにフッ素樹脂がコーティングされているかは光学顕微鏡、電子顕微鏡により観察できる。またラマン分光測定といった一般的な表面分析法でも確認できる。フッ素樹脂のコーティング量はコーティング前後の重量を測定することで見積もることができる。

【0016】本発明の高分子電解質膜補強基材は平均膜厚が $80 \mu\text{m}$ 以下で透気度が $10 \text{ sec}/100 \text{ cc} \cdot \text{in}^2$ 以下の透気度であることが好ましい。膜厚が $80 \mu\text{m}$ を超えると強度は上がるが、本発明の高分子電解質膜補強基材により補強された高分子電解質膜の膜厚が厚くなるため、電解質膜の水に対する膨潤度が低下することで膜抵抗が増加し好ましくない。透気度はガーレー法（ $100 \text{ cc}$ の空気が $1 \text{ in}^2$ の面積を $2.3 \text{ cmHg}$ の圧力で透過するのに要する時間）により測定した値を示している。この値が $10 \text{ sec}/100 \text{ cc} \cdot \text{in}^2$ より大きいとポリマー溶液から塗工法による高分子電解

質の複合化が困難になるとともに、プロトン伝導性も十分に高めることが困難となる。

【0017】本発明の高分子電解質膜補強基材の製造法は特に制限はないが、①アラミド樹脂よりなる多孔性シートにフッ素樹脂の水分散液を含浸させ熱処理し、かかる多孔性シートをフッ素樹脂でコーティングする方法、②アラミド繊維にフッ素樹脂の水分散液を含浸させ熱処理し、かかる繊維表面をフッ素樹脂でコーティングし、得られた繊維を用いて不織布等の多孔性シートとしこれにかかる補強基材とする方法が挙げられる。ここでは製造の簡便さ等から前者が好ましい。以下、この方法について説明する。

【0018】このアラミド樹脂よりなる多孔性シートにフッ素樹脂の水分散液を含浸させ熱処理し、かかる多孔性シートをフッ素樹脂でコーティングする方法としては、例えば、アラミド不織布にフッ素系樹脂水分散液を含浸させ、ローラでしごくことで余分なフッ素樹脂水分散液を除去する。これを風乾させた後、フッ素樹脂の融点以上 $380^\circ\text{C}$ 以下で熱処理をおこなう。熱処理時に熱収縮がおこるので金型等で固定することが好ましい。熱処理は空気中でおこなっても構わないが、窒素雰囲気下等の酸素が存在しない環境でおこなう方が好ましい。酸素が存在すると熱処理中にアラミド樹脂からなる多孔性シートが酸化され変色、物性の低下を招くことがある。熱処理後水冷し急激に冷やす。これを風乾することで本発明における高分子電解質膜補強基材が作製できる。

【0019】コーティングに用いる該フッ素樹脂水分散液のフッ素樹脂固形分濃度は10～50重量%が好適である。フッ素樹脂固形分濃度が10重量%未満であるとアラミド樹脂からなる多孔性シートを構成している樹脂（不織布の場合、それを構成する繊維）の表面をフッ素樹脂で十分覆うことができず、耐酸化性が十分に改善されない。また、フッ素樹脂固形分濃度が50重量%より大きいとフッ素樹脂がアラミド樹脂からなる多孔性シートの孔を塞いでしまい、プロトン伝導性高分子電解質と複合化が困難になり好ましくない。また、複合化できても膜抵抗が増加し電気特性が好ましくない。

【0020】アラミド樹脂からなる多孔性シートにフッ素樹脂水分散液を含浸させた後に熱処理をおこなうが、熱処理はフッ素樹脂の融点以上 $380^\circ\text{C}$ 以下で行うのが好ましい。フッ素樹脂の融点未満であるとフッ素樹脂が溶解せず、フッ素樹脂で多孔性シートの表面を十分に覆うことは難しい。ここで、多孔性シートの表面とは、多孔性シートの両表面以外に、シート内部の孔の表面や、不織布の場合各繊維の表面を含む。また、 $380^\circ\text{C}$ より高い温度で熱処理をおこなうと、熱処理中にかかる多孔性シートの熱分解がおこり物性の低下を招く。熱処理時間は3～10分が好ましい。3分未満であると樹脂表面に付着したフッ素樹脂が熔融し流動することで表面をコーティングするのに十分な時間がない。また、10分よ

り長いと熱処理によりかかる多孔性シートの劣化がおり物性面で問題が生じる。

【0021】このようにして得られた多孔性シートは、耐酸化性が十分に改善される程度にフッ素樹脂により実質的に覆われ、透気度は $10 \text{ sec}/100 \text{ cc} \cdot \text{in}^2$ 以下であるものが電気特性の観点から好ましい。

【0022】該高分子電解質膜補強基材により補強されたプロトン伝導性高分子電解質膜について述べる。

【0023】該プロトン伝導性高分子電解質膜は、上記高分子膜補強基材とプロトン伝導性ポリマーとが組み合わされてなる複合体であり、 $300^\circ\text{C}$ 以上の力学的な耐熱性を有している点が特徴である。力学的な耐熱温度は機械的熱的特性分析 (TMA) で測定できる。ここでは、該プロトン伝導性高分子電解質膜 (膜厚約  $45 \text{ m}$ 、幅  $5 \text{ mm}$ 、長さ  $25 \text{ mm}$  の短冊状) に  $1 \text{ g}$  の荷重で  $1^\circ\text{C}/\text{分}$  の速度で温度を昇温させ、膜が破断するかあるいは膜が  $10\%$  伸びる温度を力学的な耐熱温度とした。この温度が  $300^\circ\text{C}$  未満では、異常反応等により電池内部の温度が急激に上がった際の電池の安全性を保証できなくなり好ましくない。

【0024】該プロトン伝導性高分子電解質膜は、例えば上記高分子電解質膜補強基材にプロトン伝導性ポリマーを含浸させ、乾燥することによって製造することができる。プロトン伝導性ポリマーとしては「ナフィオン」に代表されるパーフルオロスルホン酸樹脂、ポリスチレンスルホン酸、スルホン酸基が導入されたポリスルホン、ポリエーテルスルホン、ポリスルホン等が挙げられるが、これらに限定されるものではない。

【0025】

【実施例】以下、本発明の内容を実施例を用いて詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。

<耐酸化性モデル評価>実施例における耐酸化性の評価法を述べる。ただし、耐酸化性の評価はこれに限定されるものではない。本発明は耐酸化性の向上のためアラミド不織布をフッ素樹脂でコーティングしているが、不織布の耐酸化性の評価は "Proceedings of the Symposium on Electrode Materials and Process for Energy Conversion and Storage", Vol. 77 (6), p. 314 (1977), The Electrochemical Society に記載されている方法を参考にした。 $30$  重量%の過酸化水素水に  $20 \text{ ppm}$  の硫酸鉄 (II) ( $\text{FeSO}_4$ ) を混ぜたいわゆる Fenton 試薬中に不織布を浸漬し  $68^\circ\text{C}$  で熱処理する。このように処理した不織布の引張最大応力の経時変化により不織布の耐酸化性を評価することができる。引張最大応力は引っ張り試験での最大応力である。 $24$  時間熱処理後の不織布の引張最大応力を未処理の不織布の引張最大応力

で割った値 (百分率で示す) を引張最大応力維持率とし、これを耐酸化性の指標とした。

【0026】【実施例1】メタ型アラミド繊維 (商品名: コーネックス、帝人株式会社製) からなる平均膜厚が  $40 \mu\text{m}$ 、目付けが  $20 \text{ g}/\text{m}^2$  の不織布を乾式抄造法により作製し、これに固形分濃度が  $30\%$  のポリテトラフルオロエチレン (PTFE、融点  $327^\circ\text{C}$ ) 水分散液 (ダイキン工業製) を含浸させ、ローラでしごき、風乾させた。この不織布を金型に固定し、 $340^\circ\text{C}$  で  $10$  10 分間熱処理をおこない高分子電解質膜補強基材を作製した。この高分子電解質膜補強基材の平均膜厚は  $50 \mu\text{m}$ 、透気度は  $0.1 \text{ sec}/100 \text{ cc} \cdot \text{in}^2$  であった。この不織布について上で述べたような方法で耐酸化性の評価をおこなった。引張最大応力維持率は  $84.6\%$  であった。結果を図1に示す。

【0027】【実施例2】メタ型アラミド繊維 (商品名: コーネックス、帝人株式会社製) からなる平均膜厚が  $40 \mu\text{m}$ 、目付けが  $20 \text{ g}/\text{m}^2$  の不織布を乾式抄造法により作製し、これに固形分濃度が  $30\%$  のテトラフルオロエチレン-ヘキサフルオロプロピレン共重合体 (FEP、融点  $270^\circ\text{C}$ ) 水分散液 (ダイキン工業製) を含浸させ、ローラでしごき、風乾させた。この不織布を金型に固定し、 $300^\circ\text{C}$  で  $10$  分間熱処理をおこない高分子電解質膜補強基材を作製した。この高分子電解質膜補強基材の平均膜厚は  $50 \mu\text{m}$  であった。透気度は  $0.1 \text{ sec}/100 \text{ cc} \cdot \text{in}^2$ 。この不織布について上で述べたような方法で耐酸化性の評価をおこなった。引張最大応力維持率は  $81.3\%$  であった。結果を図1に示す。

【0028】【比較例1】メタ型アラミド繊維 (商品名: コーネックス、帝人株式会社製) からなる平均膜厚が  $40 \mu\text{m}$ 、目付けが  $20 \text{ g}/\text{m}^2$  の不織布を乾式抄造法により作製し、上で述べたような方法で耐酸化性の評価をおこなった。この不織布の透気度は  $0.04 \text{ sec}/100 \text{ cc} \cdot \text{in}^2$ 、引張最大応力維持率は  $27.3\%$  であった。結果を図1に示す。実施例1、2及び比較例1から本発明の高分子電解質膜補強基材であるフッ素樹脂をコーティングしたアラミド不織布は明らかにアラミド不織布に比べ耐酸化性が改善された。

【0029】【実施例3】実施例1で作製した高分子電解質膜補強基材をポリエチレンテレフタレートフィルム上に置き、その上から  $10 \text{ wt. \%}$  のナフィオン溶液 (Aldrich社) を  $200 \mu\text{m}$  のクリアランスのドクターナイフでキャストした。ついでこれを風乾することにより該補強基材で補強されたプロトン伝導性高分子電解質膜を作製した。このプロトン伝導性高分子電解質膜の力学的な耐熱温度は  $400^\circ\text{C}$  以上であった。このプロトン伝導性電解質膜について上で述べたような方法で耐酸化性の評価をおこなった結果、引張最大応力維持率は  $82.1\%$  であった。

【0030】〔実施例4〕実施例2で作製し高分子電解質膜補強基材をポリエチレンテレフタレートフィルム上に置き、その上から10wt. %のナフィオン溶液 (Aldrich社) を200 $\mu$ mのクリアランスのドクターナイフでキャストした。風乾することで該補強基材で補強されたプロトン伝導性高分子電解質膜を作製した。このプロトン伝導性高分子電解質膜の力学的な耐熱温度は400℃以上であった。このプロトン伝導性電解質膜について上で述べたような方法で耐酸化性の評価をおこなった結果、引張最大応力維持率は79.4%であった。実施例3、4から本発明の高分子電解質膜補強基材をパーフルオロスルホン酸樹脂と複合化させたプロトン伝導性電解質膜も本発明の高分子電解質膜補強基材と同等の耐酸化性を維持することが示された。そしてフッ素樹脂をコーティングしたアラミド不織布は、アラミド不織布に比べ、耐酸性、耐加水分解性も改善された。

【0031】〔実施例5〕ガス拡散電極として0.38mg/cm<sup>2</sup>の白金を担持させた米国E-TEK INC製の電極を用い、これを直径30mmに打ち抜いて用いた。実施例3で得られた高分子電解質膜を、沸騰したイ

オン交換水中に2時間浸漬し、かかる膜を含水状態とした後、表面の過剰な水を拭き取り、かかるガス拡散電極2枚で挟み込み、100℃にて9.8MPa (100kgf/cm<sup>2</sup>) で3分間加圧し電極接合体を得た。得られた電極接合体について、加湿水素及び酸素を供給し80℃加熱下で燃料電池出力特性を評価した。10ケの単セルを作製したが、短絡やガスリークなどの欠陥は一つもなく、0.7A/cm<sup>2</sup>で0.65Vの性能が得られた。

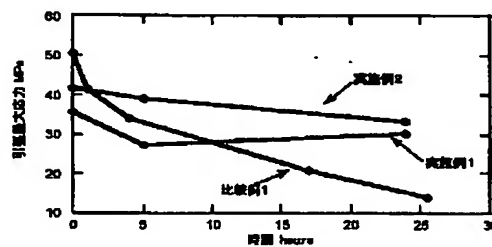
#### 10 【0032】

【発明の効果】以上詳述してきたように本発明によれば、フッ素樹脂でコーティングすることでアラミド樹脂からなる多孔性シートの耐酸化性、耐酸性、耐加水分解性を向上させ、アラミド樹脂からなる多孔性シートを、特に固体高分子型燃料電池用に好適な高分子電解質膜補強基材として用いることが可能となった。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】図1は実施例1、2及び比較例1、2の不織布の耐酸化性評価における引張最大応力の経時変化を示したものである。

【図1】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

H01M 8/10

識別記号

FI

H01M 8/10

テーマコード (参考)

Fターム(参考) 4D006 GA16 MA03 MA06 MA09 MA11  
MA31 MA40 MB11 MB12 MB15  
MB16 MB17 MB20 MC28 MC30X  
MC54X NA03 NA46 NA62  
NA63 PC80  
4F006 AA38 AA51 AB19 BA16 CA08  
DA04 EA05  
4F072 AA04 AB06 AB29 AD07 AG03  
AG14 AH03 AH22 AJ04 AK20  
4F100 AK17B AK18B AK47A BA02  
DG15A DJ10A EH41 EH411  
EH46 EH462 EJ42 GB56  
JB01 JB03 YY00B  
5H026 AA06 BB00 BB01 BB03 BB04  
CX03 CX05 EE18 EE19 HH05



\* NOTICES \*

Japan Patent Office is not responsible for any damages caused by the use of this translation.

1. This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
2. \*\*\*\* shows the word which can not be translated.
3. In the drawings, any words are not translated.

---

CLAIMS

---

[Claim(s)]

[Claim 1] It is the polyelectrolyte film reinforcement base material which consists of a porous sheet which consists of aramid resin, and is characterized by carrying out coating of this porous sheet with the fluororesin.

[Claim 2] The polyelectrolyte film reinforcement base material according to claim 1 characterized by a porous sheet being a nonwoven fabric.

[Claim 3] The polyelectrolyte film reinforcement base material according to claim 1 or 2 with which polytetrafluoroethylene (PTFE) comes out and the principal component of a fluororesin is characterized by a certain thing.

[Claim 4] The polyelectrolyte film reinforcement base material according to claim 2 or 3 to which coating of the front face of the fiber which constitutes a nonwoven fabric is carried out with the fluororesin.

[Claim 5] The manufacturing method of the polyelectrolyte film reinforcing materials characterized by for the porous sheet which consists of aramid resin infiltrating the water dispersion of a fluororesin, and subsequently heat-treating.

[Claim 6] The manufacturing method of the polyelectrolyte film reinforcement base material according to claim 5 characterized by heat treatment temperature being 380 degrees C or less more than the melting point of this fluororesin.

[Claim 7] The manufacturing method of the polyelectrolyte film reinforcement base material according to claim 6 characterized by the fluororesin solid content concentration of the water dispersion of this fluororesin being 10 - 50 % of the weight.

[Claim 8] It is the proton conductivity polyelectrolyte film which consisted of a porous sheet which consists of aramid resin, and was reinforced with the polyelectrolyte film reinforcement base material characterized by carrying out coating of this porous sheet with the fluororesin.

---

[Translation done.]

\* NOTICES \*

Japan Patent Office is not responsible for any damages caused by the use of this translation.

1. This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
2. \*\*\*\* shows the word which can not be translated.
3. In the drawings, any words are not translated.

---

DETAILED DESCRIPTION

---

[Detailed Description of the Invention]

[0001]

[Field of the Invention] About a polyelectrolyte film reinforcement base material and the proton conductivity polyelectrolyte film reinforced by that cause excellent in mechanical strength and thermal resistance, in more detail, this invention consists of a porous sheet of aramid resin, and relates to the proton conductivity polyelectrolyte film reinforced with the polyelectrolyte film reinforcement base material which raised oxidation resistance, acid resistance, and hydrolysis-proof nature, its manufacturing method, and this reinforcement base material.

[0002]

[Description of the Prior Art] An aramid fiber is excellent in thermal resistance or reinforcement, and is used for the application for which those properties are needed. However, the present condition is fully being able to finishing harnessing with the description which an application's is limited since it is inferior to chemical resistance, such as oxidation resistance, acid resistance, and hydrolysis-proof nature, and aramid fibers', such as thermal resistance's and reinforcement's, have.

[0003] In recent years, a fuel cell attracts attention as a clean and efficient power source from an environmental problem, and development of a polymer electrolyte fuel cell (PEFC) is actively performed from a viewpoint of low-temperature actuation or a miniaturization. The polyelectrolyte film which PEFC uses is "Nafion" (Nafion, trademark of Du Pont.). the following -- the same . Although the perfluoro sulfonic-acid film represented is used, thin film-ization is demanded from viewpoints, such as reduction of membrane resistance, film moisture maintenance management nature, and low-cost-izing. It is the mechanical strength-problem of the perfluoro sulfonic-acid film, and a film reinforcement technique becomes important for thin-film-izing. The technique of making it compound-ize with the tetrafluoroethylene extension porosity film as a film reinforcement technique is indicated by JP,8-162132,A. However, since the surface tension of the tetrafluoroethylene extension porosity film was small, it is not only expensive as a base material, but had the problem that sinking [ of a dope ] in was difficult, from the wettability problem of a dope at the time of electrolyte dope sinking in.

[0004] The demand to the oxidation resistance from a viewpoint of endurance is strong to the polyelectrolyte film reinforcement base material for PEFC, and the present condition is that only the fluorine system resin represented by tetrafluoroethylene is used.

[0005] On the other hand, there is a technique coated with a fluororesin as a technique which raises the chemical resistance of an aramid fiber. For example, make a non-subtlety particle adhere, the mixture of the water dispersion of a polytetrafluoroethylene particle and fluorination urethane is made to adhere after heat treatment, and there are the approach (JP,8-299719,A) of heat-treating and form-of-a-rope matter (JP,3-249276,A) heat-treated with the melting point of \*\*60 degrees C of a fluororesin.

[0006]

[Problem(s) to be Solved by the Invention] It is in the purpose of this invention offering the aramid porosity sheet with which oxidation resistance, acid resistance, and hydrolysis-proof nature have been improved, and offering the polyelectrolyte film for PEFC which has proton conductivity, reinforcement,

and thermal resistance by using this as a polyelectrolyte film reinforcement base material for PEFC.

[0007]

[Means for Solving the Problem] As for the nonwoven fabric which consists of the viewpoint of thin-film-izing of the polyelectrolyte film for PEFC to an aramid fiber, it is advantageous as a reinforcement base material to excel the fluorine system resin system in reinforcement. Moreover, it is advantageous also in cost. However, oxidation resistance, acid resistance, and hydrolysis-proof nature pose a problem.

[0008] As a result of inquiring wholeheartedly in view of such the present condition, the porous sheet which consists of aramid resin excellent in oxidation resistance, acid resistance, and hydrolysis-proof nature is developed, and it came to complete this invention by using this as a polyelectrolyte film reinforcement base material for PEFC.

[0009] That is, this invention consists of a porous sheet which consists of aramid resin, and this porous sheet is a polyelectrolyte film reinforcement base material characterized by carrying out coating with the fluororesin.

[0010] Oxidation resistance, acid resistance, and hydrolysis-proof nature improve on the porous sheet which consists of aramid resin by performing fluororesin coating, and this invention uses this for it as a polyelectrolyte film reinforcement base material in order to solve the above-mentioned technical problem.

[0011]

[Embodiment of the Invention] Hereafter, the polyelectrolyte film reinforcement base material and polyelectrolyte film of this invention are explained to a detail. It is characterized by the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention being a porous sheet which consists of aramid resin by which coating was carried out with the fluororesin.

[0012] Although there are some which consist of meta-mold aramid resin and Para mold aramid resin in the aramid resin which forms the porous sheet used for the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention, both can use for this invention. Moreover, it does not matter even if it is the copolymer or blend object with which a principal component consists of aramid resin.

[0013] In this invention, the configuration of the porous sheet which consists of aramid resin has a desirable configuration of the film which much pores which consist of sheet or aramid resin of Mr. Kami with the permeability of the structure which what has the shape of a three-dimensions mesh, such as a nonwoven fabric and textiles, which consists of an aramid fiber, and the synthetic pulp which is an aramid polymer distribute opened. The nonwoven fabric of 5 - 40 g/m<sup>2</sup> is suitably used for a superintendent officer from a viewpoint of the proton conductivity of the electrolyte membrane reinforced by the ease of carrying out and this reinforcement base material of electrolyte membrane production which were especially reinforced by these reinforcement base materials, such as the ease of carrying out of coating, the impregnating ability of a polyelectrolyte dope, and the amount of sinking in. Reinforcement as a reinforcement base material cannot fully be maintained as superintendent officers are less than two 5 g/m. Moreover, if a superintendent officer is larger than 40 g/m<sup>2</sup>, thickness will become thick and the voidage of a nonwoven fabric will also fall. For this reason, membrane resistance becomes large and causes the fall of the conductivity of the polyelectrolyte film.

[0014] The fluororesin which makes polytetrafluoroethylene (PTFE) and this a principal component as a fluororesin which coats the porous sheet which consists of aramid resin is used suitably. As a fluororesin which uses PTFE as a principal component (50% of the weight or more of the whole preferably 80 % of the weight or more), although tetrafluoroethylene-perfluoroalkyl vinyl ether copolymer (PFA) and tetrafluoroethylene-hexafluoropropylene copolymer (FEP) \*\* is used suitably, for example, it is not limited to this.

[0015] It is observable whether coating of the fluororesin is carried out to the porous sheet which consists of aramid resin with an optical microscope and an electron microscope. Moreover, it can check also by the general surface analysis method of the Raman spectrometry. The amount of coatings of a fluororesin can be estimated by measuring the weight before and behind coating.

[0016] As for the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention, it is desirable that average thickness is [ air permeability ] two or less cc-in [ 10sec(s)/100 cc-in ] air permeability in 80

micrometers or less. If thickness exceeds 80 micrometers, although reinforcement goes up, since the thickness of the polyelectrolyte film reinforced by the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention becomes thick, it increases [ because the degree of swelling to the water of an electrolyte membrane falls / membrane resistance ] and is not desirable. Air permeability shows the value measured by the gar rhe method (time amount taken for 100 cc air to penetrate 1 inch of area of 2 by the pressure of 2.3cmHg(s)). If this value is larger than 10sec(s) / 100 cc-in<sup>2</sup>, while compound-ization of the polyelectrolyte by the coating method becomes difficult, it will become difficult from a polymer solution to also fully raise proton conductivity.

[0017] The water dispersion of a fluoro-resin is infiltrated into the porous sheet which consists of \*\* aramid resin although especially a limit does not have the manufacturing method of the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention, and it heat-treats, and the water dispersion of a fluoro-resin is infiltrated into the approach and \*\* aramid fiber which coat this porous sheet with a fluoro-resin, it heat-treats, this fiber front face is coated with a fluoro-resin, and the approach of a nonwoven fabric etc. carrying out a porous sheet using the obtained fiber, and making this this reinforcement base material is mentioned. Here, the simplicity of manufacture etc. to the former is desirable. Hereafter, this approach is explained.

[0018] The water dispersion of a fluoro-resin is infiltrated into the porous sheet which consists of this aramid resin, and it heat-treats, and as an approach of coating this porous sheet with a fluoro-resin, a fluorine system resin water dispersion is infiltrated into an aramid nonwoven fabric, and an excessive fluoro-resin water dispersion is removed by drawing through with a roller, for example. After carrying out the air dried of this, it heat-treats below 380 degrees C more than the melting point of a fluoro-resin. Since a heat shrink starts at the time of heat treatment, fixing with metal mold etc. is desirable. Although heat treatment may be performed in air, it is more desirable to carry out in the environment where the oxygen under nitrogen-gas-atmosphere mind etc. does not exist. When oxygen exists, during heat treatment, the porous sheet which consists of aramid resin may oxidize, and discoloration and the fall of physical properties may be caused. After [ heat treatment ] water cooling is carried out, and it cools rapidly. The polyelectrolyte film reinforcement base material in this invention is producible by air-drying this.

[0019] 10 - 50 % of the weight is suitable for the fluoro-resin solid content concentration of this fluoro-resin water dispersion used for coating. The front face of the resin (fiber which constitutes it in the case of a nonwoven fabric) which constitutes the porous sheet with which fluoro-resin solid content concentration becomes being less than 10 % of the weight from aramid resin cannot be enough covered with a fluoro-resin, and oxidation resistance is not fully improved. Moreover, it becomes [ if fluoro-resin solid content concentration is larger than 50 % of the weight, will close the hole of the porous sheet with which a fluoro-resin consists of aramid resin, and / a proton conductivity polyelectrolyte and compound-ization ] difficult and is not desirable. Moreover, even if it can carry out [ \*\*\*\* ]-izing, membrane resistance increases and an electrical property is not desirable.

[0020] Although it heat-treats after infiltrating a fluoro-resin water dispersion into the porous sheet which consists of aramid resin, it is desirable to perform heat treatment below 380 degrees C more than the melting point of a fluoro-resin. It is difficult for a fluoro-resin not to dissolve that it is under the melting point of a fluoro-resin, but to fully cover the front face of a porous sheet with a fluoro-resin. Here, the front face of the hole inside a sheet, and in the case of a nonwoven fabric, with the front face of a porous sheet, the front face of each fiber is included in addition to both the front faces of a porous sheet. Moreover, if it heat-treats at temperature higher than 380 degrees C, the pyrolysis of the porous sheet applied during heat treatment will start, and the fall of physical properties will be caused. Heat treatment time amount has 3 - 10 desirable minutes. There is not sufficient time amount to coat a front face with the fluoro-resin which adhered that it was less than 3 minutes to the resin front face fusing and flowing. Moreover, if longer than 10 minutes, degradation of this porous sheet will start by heat treatment, and a problem will arise in respect of physical properties.

[0021] Thus, the obtained porous sheet is substantially covered with extent with which oxidation resistance is fully improved with a fluoro-resin, and, as for air permeability, what is two or less 10sec

(s)/100 cc-in is desirable from a viewpoint of an electrical property.

[0022] The proton conductivity polyelectrolyte film reinforced by this polyelectrolyte film reinforcement base material is described.

[0023] This proton conductivity polyelectrolyte film is complex with which it comes to put the above-mentioned poly membrane reinforcement base material and a proton conductivity polymer together, and the point of having the dynamic thermal resistance of 300 degrees C or more is the description. Dynamic heat-resistant temperature can be measured by mechanical thermal property analysis (TMA). Here, the temperature up of the temperature was carried out to this proton conductivity polyelectrolyte film (the thickness of about 45mm, width of face of 5mm, the shape of a strip of paper with a die length of 25mm) the rate for 10-degree-C/by the 1g load, and temperature to which the film fractures or the film is extended 10% was made into dynamic heat-resistant temperature. It becomes impossible for this temperature to guarantee the safety of the cell at the time of less than 300 degrees C covering the expenses of the temperature inside a cell rapidly by an anomalous reaction etc., and it is not desirable.

[0024] This proton conductivity polyelectrolyte film can infiltrate a proton conductivity polymer for example, into the above-mentioned polyelectrolyte film reinforcement base material, and can be manufactured by drying. Although the polysulfone into which the perfluoro sulfonic acid type resin represented by "Nafion" as a proton conductivity polymer, polystyrene sulfonate, and a sulfonic group were introduced, polyether sulphone, polysulfone, etc. are mentioned, it is not limited to these.

[0025]

[Example] Hereafter, although the contents of this invention are explained to a detail using an example, this invention is not limited to these examples.

The oxidation-resistant appraisal method in a <oxidation-resistant model evaluation> example is described. However, oxidation-resistant evaluation is not limited to this. Although this invention has coated the aramid nonwoven fabric with the fluororesin for improvement in oxidation resistance, oxidation-resistant evaluation of a nonwoven fabric is "Proceedings of the Symposium - Electrode Materials and Process for Energy Conversion and Storage", Vol.77(6), p.314 (1977), and The. Electrochemical It referred to the approach indicated by Socety. A nonwoven fabric is immersed into the so-called Fenton reagent which mixed 20 ppm iron(II) sulfate ( $\text{FeSO}_4$ ) with 30% of the weight of hydrogen peroxide solution, and it heat-treats at 68 degrees C. Thus, aging of the \*\*\*\* maximum stress of the processed nonwoven fabric can estimate the oxidation resistance of a nonwoven fabric. \*\*\*\* maximum stress pulls and is maximum stress in a trial. The value (a percentage shows) which broke the \*\*\*\* maximum stress of the nonwoven fabric after 24-hour heat treatment by the \*\*\*\* maximum stress of an unsettled nonwoven fabric was made into the \*\*\*\* maximum stress maintenance factor, and this was made into the oxidation-resistant index.

[0026] the average thickness which consists of a [example 1] meta-mold aramid fiber (trade name: Conex, Teijin, Ltd. make) produces the nonwoven fabric of 20g/m<sup>2</sup> by 40 micrometers, a superintendent officer produces by the dry type milling-paper method, and the polytetrafluoroethylene (PTFE, melting point of 327 degrees C) water dispersion (Daikin Industries make) whose solid content concentration is 30% is sunk into this -- making -- a roller -- cover printing -- the air dried was carried out. This nonwoven fabric was fixed to metal mold, heat treatment was performed for 10 minutes at 340 degrees C, and the polyelectrolyte film reinforcement base material was produced. The average thickness of this polyelectrolyte film reinforcement base material was 50 micrometers, and air permeability was 0.1sec (s) / 100 cc-in<sup>2</sup>. Evaluation oxidation-resistant by approach which was described about this nonwoven fabric in the top was performed. The \*\*\*\* maximum stress maintenance factor was 84.6%. A result is shown in drawing 1.

[0027] the average thickness which consists of a [example 2] meta-mold aramid fiber (trade name: Conex, Teijin, Ltd. make) produces the nonwoven fabric of 20 g/m<sup>2</sup> by 40 micrometers, a superintendent officer produces by the dry type milling-paper method, and the tetrafluoroethylene-hexafluoropropylene copolymer (FEP, melting point of 270 degrees C) water dispersion (Daikin Industries make) whose solid content concentration is 30% is sunk into this -- making -- a roller -- cover printing -- the air dried was carried out. This nonwoven fabric was fixed to metal mold, heat treatment

was performed for 10 minutes at 300 degrees C, and the polyelectrolyte film reinforcement base material was produced. The average thickness of this polyelectrolyte film reinforcement base material was 50 micrometers. Air permeability is 0.1sec(s) / 100 cc-in<sup>2</sup>. Evaluation oxidation-resistant by approach which was described about this nonwoven fabric in the top was performed. The \*\*\*\* maximum stress maintenance factor was 81.3%. A result is shown in drawing 1.

[0028] The average thickness which consists of a [example 1 of comparison] meta-mold aramid fiber (trade name: Conex, Teijin, Ltd. make) produced the nonwoven fabric of 20 g/m<sup>2</sup> by 40 micrometers, the superintendent officer produced by the dry type milling-paper method, and evaluation oxidation-resistant by approach which was described in the top was performed. 0.04sec(s) / 100 cc-in<sup>2</sup>, and the \*\*\*\* maximum stress maintenance factor of the air permeability of this nonwoven fabric were 27.3%. A result is shown in drawing 1. As for the aramid nonwoven fabric which coated the fluororesin which is the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention, compared with an aramid nonwoven fabric, oxidation resistance has been clearly improved from examples 1 and 2 and the example 1 of a comparison.

[0029] It produced in the [example 3] example 1, the polyelectrolyte film reinforcement base material was placed on the polyethylene terephthalate film, and the cast of the Nafion solution (Aldrich) of 10wt (s).% was carried out with the doctor knife of 200-micrometer path clearance from on the. Subsequently, the proton conductivity polyelectrolyte film reinforced with this reinforcement base material was produced by air-drying this. The dynamic heat-resistant temperature of this proton conductivity polyelectrolyte film was 400 degrees C or more. As a result of performing evaluation oxidation-resistant by approach which was described about this proton conductivity electrolyte membrane in the top, the \*\*\*\* maximum stress maintenance factor was 82.1%.

[0030] It produced in the [example 4] example 2, the polyelectrolyte film reinforcement base material was placed on the polyethylene terephthalate film, and the cast of the Nafion solution (Aldrich) of 10wt (s).% was carried out with the doctor knife of 200-micrometer path clearance from on the. The proton conductivity polyelectrolyte film reinforced with this reinforcement base material according to it being air-dry was produced. The dynamic heat-resistant temperature of this proton conductivity polyelectrolyte film was 400 degrees C or more. As a result of performing evaluation oxidation-resistant by approach which was described about this proton conductivity electrolyte membrane in the top, the \*\*\*\* maximum stress maintenance factor was 79.4%. Maintaining oxidation resistance also with the proton conductivity electrolyte membrane equivalent to the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention which made the polyelectrolyte film reinforcement base material of this invention compound-ize with perfluoro sulfonic acid type resin from examples 3 and 4 was shown. And as for the aramid nonwoven fabric which coated the fluororesin, acid resistance and hydrolysis-proof nature have also been improved compared with an aramid nonwoven fabric.

[0031] This was pierced and used for the diameter of 30mm using the electrode made from U.S. E-TEKINC which made the platinum of 0.38 mg/cm<sup>2</sup> support as a [example 5] gas diffusion electrode. After being immersed for 2 hours into the ion exchange water which boiled the polyelectrolyte film obtained in the example 3 and making this film into a moisture state, water with a superfluous front face was wiped off, and it put with these two gas diffusion electrodes, and pressurized for 3 minutes by 9.8MPa(s) (100 kgf/cm<sup>2</sup>) at 100 degrees C, and the electrode zygote was obtained. About the obtained electrode zygote, humidification hydrogen and oxygen were supplied and fuel cell output characteristics were evaluated under 80-degree-C heating. Although ten single cels were produced, defects, such as a short circuit and a gas leak, do not have one, and the engine performance of 0.65V was obtained by 0.7 A/cm<sup>2</sup>.

[0032]  
[Effect of the Invention] As explained in full detail above, the oxidation resistance of the porous sheet which consists of aramid resin by coating with a fluororesin according to this invention, acid resistance, and hydrolysis-proof nature were raised, and it became possible to use the porous sheet which consists of aramid resin as a suitable polyelectrolyte film reinforcement base material especially for polymer electrolyte fuel cells.

---

[Translation done.]

\* NOTICES \*

Japan Patent Office is not responsible for any damages caused by the use of this translation.

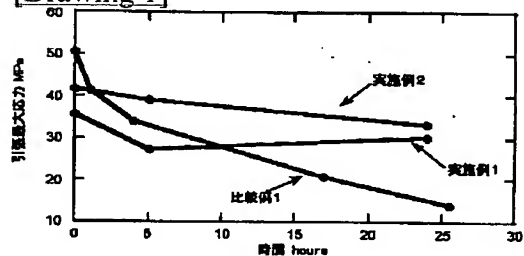
1. This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
2. \*\*\*\* shows the word which can not be translated.
3. In the drawings, any words are not translated.

---

DRAWINGS

---

[Drawing 1]



---

[Translation done.]